

## コバルト価格急騰はE V普及の足かせになるか？

### <コバルト価格急騰について>

足もとでレアメタル（希少金属）の一種であるコバルトの価格が急騰しています。背景にはEV（電気自動車）の需要急増があるとされています。EVや家庭用蓄電池などに使われている高容量・高電圧なリチウムイオン二次電池の正極にはコバルトが使用されています。EVに必要となるコバルトの量は、1台当たり10～15キログラムと言われており、ノートパソコン1台当たり必要となる約33グラム、スマートフォン1台当たりの約6グラムと比較しても膨大となっています。そのため、現在の価格高騰がEV普及の足かせになるとの観測もなされています。

【コバルト価格の推移】（日次：2015年1月1日～2018年1月12日）

(USD/1t)



### <今後の見通し>

コバルトの年間生産量は約10万トンで半分をコンゴ民主共和国が占めています。2017年11月には国際人権NGOであるアムネスティが、コンゴ民主共和国内のコバルト採掘における児童労働問題を摘発するなど話題を集めました。また狭い坑道内での採掘の約2割が手掘りであり、致命的な事故や深刻な肺疾患のリスクも指摘しました。

このように人道的問題も指摘されるコバルトの利用は今後減少することが見込まれます。過去、EV用電池に必要なコバルト量は技術革新により減少してきました。また、2017年5月には株式会社富士通研究所が、従来コバルト系材料でしか実現できていなかった高い電圧を持つリン酸鉄系リチウム二次電池用正極材料の開発に成功したと発表しました。

今後も技術革新によりコバルトの使用量が減少すると予想されることや、コバルトの代替となる新素材が実用化される可能性があることから、コバルト価格の高騰がEV普及の足かせとはならないと考えています。

各種資料をもとに大和住銀投信投資顧問作成

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

資産運用のベストパートナー、だいわすみぎん  
大和住銀投信投資顧問  
Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第353号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会